

## □ は 健康のもと Vol.151

### 超高齢社会のインプラント治療 ～事前検査が重要～

近年、ブリッジや取り外し式の入れ歯に加えてインプラント、すなわち人工歯根を用いた治療が一般に浸透しつつあります。インプラント治療は様々な変遷を経ていますが、現在、主に使用されているのは純チタンなど、生体組織ではない材料が骨の中で安定する現象『オッセオインテグレーション』を利用したものです。このタイプのインプラントは臨床応用開始から40年余を経過し、高い治療成績を示しています。

一方、インプラント治療の成績について、65歳未満と65歳以上の患者さんを比較した調査では、インプラントを失う頻度に差がなかったという結果が報告されています。このことから、高齢者であること自体がインプラント治療に向いていないというわけではないことがわかります。しかしながら、高齢者は一般的に基礎疾患を持つ割合が増加し、手術などに伴うリスクが高まることも事実です。糖尿病や骨粗鬆症などの骨の代謝に影響する疾患は注意を要します。したがって、インプラント治療に対するリスクとなるような疾患にかかっていないかどうか、今後そのような疾患にかかってしまわないように体調管理ができるかどうかなど、事前の検査で詳しく調べるが大変重要です。



奥羽大学歯学部附属病院  
総合歯科 教授 関根 秀元

